

南海トラフ地震と 気象庁の地震情報



2022年3月17日
和歌山地方气象台

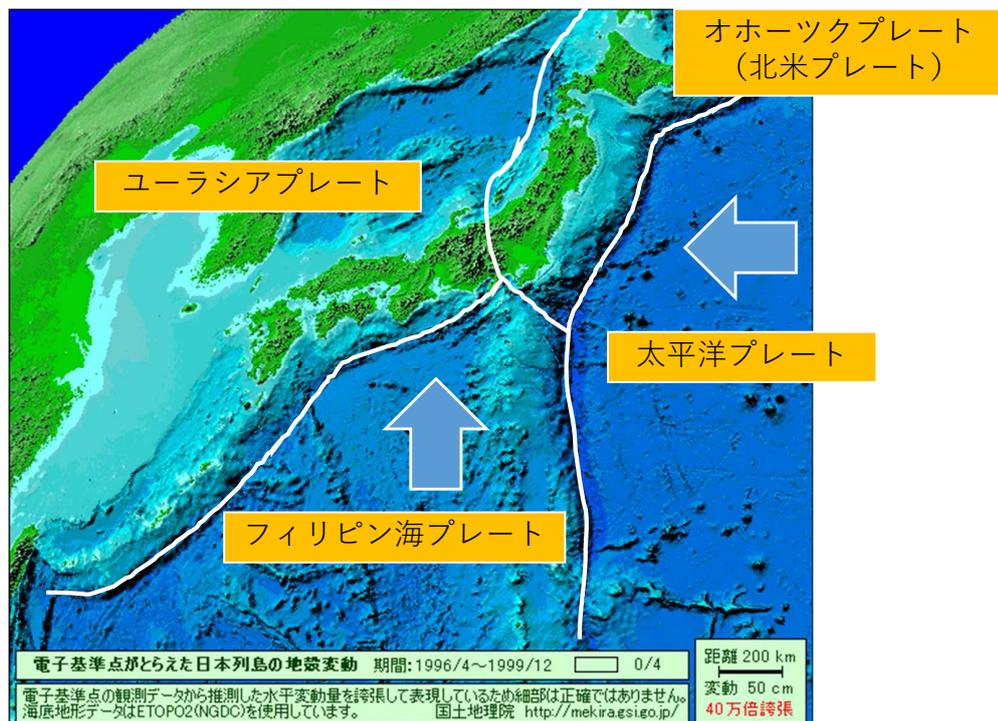
本日の内容

- ◆ 地震と津波について
- ◆ 南海トラフ地震とその影響
- ◆ 地震・津波の防災情報の伝達
- ◆ 地震・津波の防災情報の発表タイミング
- ◆ 地震の防災情報
- ◆ 津波の防災情報
- ◆ 地震・津波から身を守るために

地震と津波について

2

日本周辺のプレート



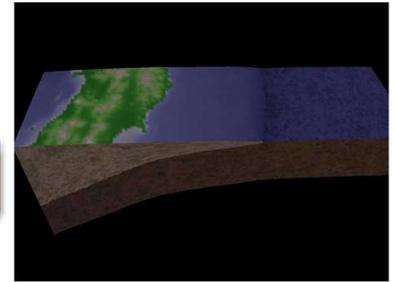
3

日本列島周辺の地震のしくみ

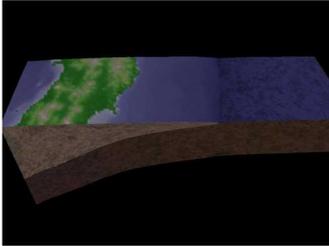
地震は、プレートの移動によって発生しているが、その歪みを解消する場所によって3種類に分類できる。

1. プレート境界の地震 (海溝型地震)
2. 陸域の浅い地震 (直下型地震?)
3. 沈み込むプレート内の地震 (海洋プレート内地震)
→アウターライズ地震
→スラブ内地震

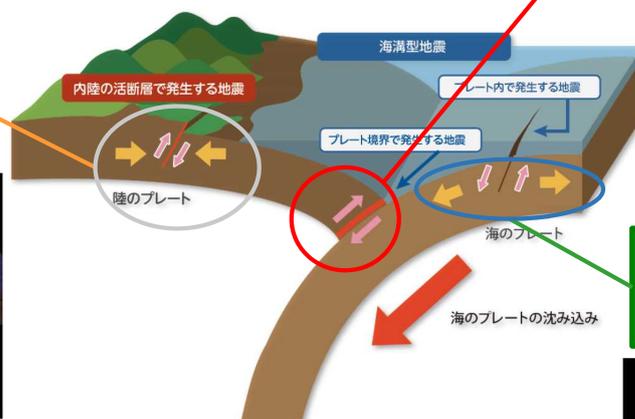
プレート境界の地震
2011年東北地方太平洋沖地震



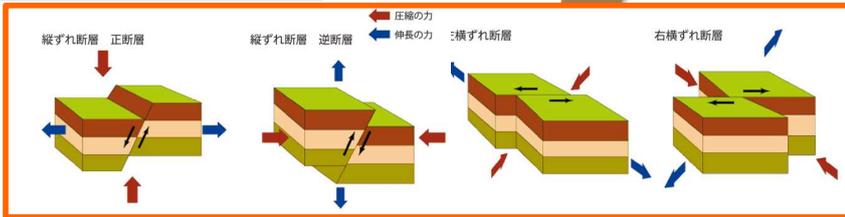
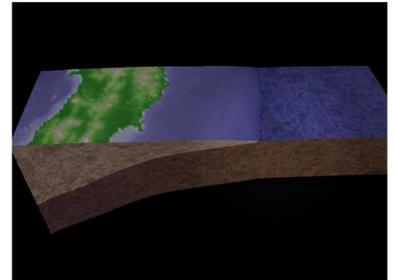
陸域の浅い地震
1995年兵庫県南部地震
2016年熊本地震



日本列島周辺で発生する地震のタイプ



沈み込むプレート内の地震
1933年昭和三陸地震
アウターライズ地震



断層の大きさと揺れの大きさ

断層が割れていく速度はほとんどの地震で同じ
秒速 3 km !!

強烈な揺れは、大きい地震ほど長く続く



マグニチュード 9

■ 立ってられないくらいの強い揺れ

■ 10~15秒くらい → M7

■ 1分くらい → M8

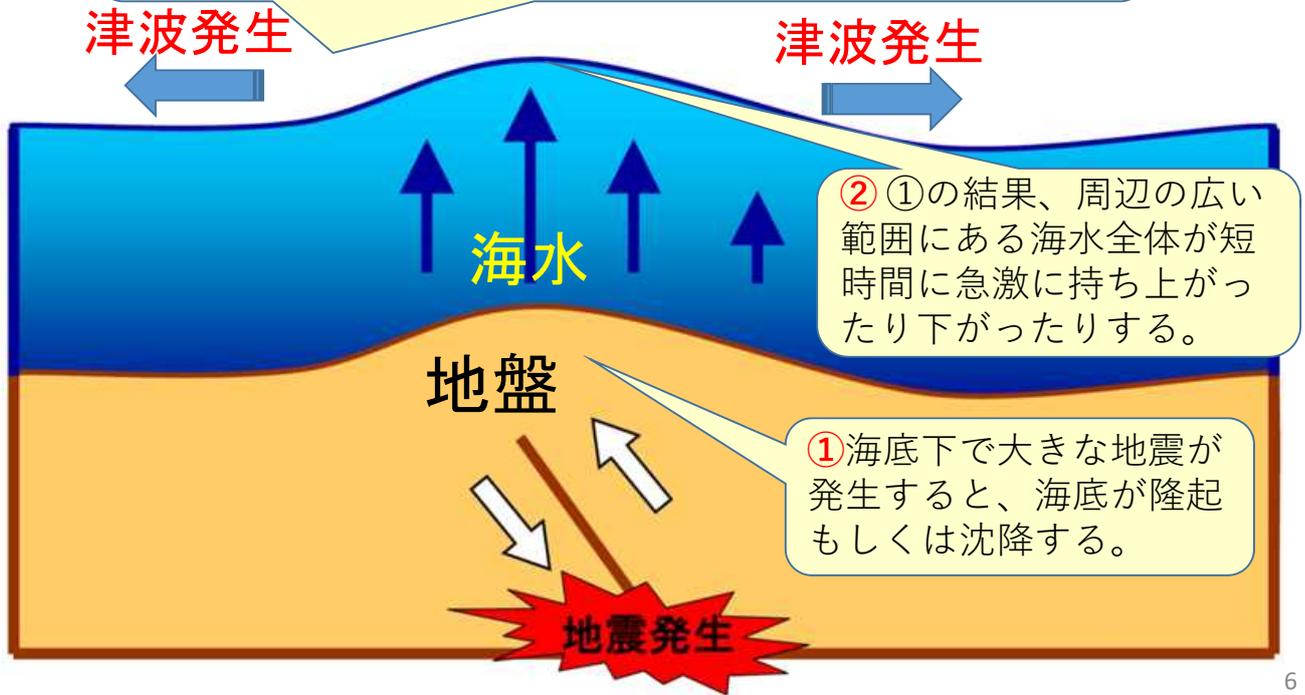
■ 3分くらい → M9

■ 震度6弱以上の分布が県全体から複数県 → M8以上を想定

津波とはどのような現象か

津波の発生（地震による海底の地殻変動）

③ ②により発生した海面のもり上がりまたは沈みこみによる波が周りに広がっていきます。

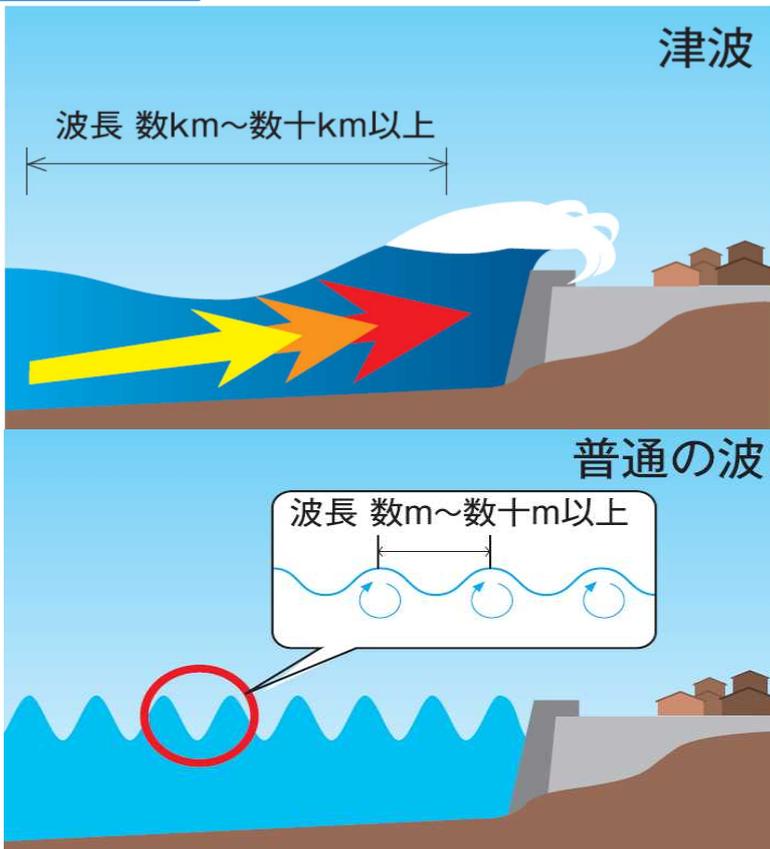


6

津波の特徴①

波長の違い、波長

津波は膨大なエネルギーを持っています



■ 普通の波は海の表面の海水が動くだけですが、津波の場合は、海の表面から何千mもの深い海底までの海水すべてが動いて伝わってきます。

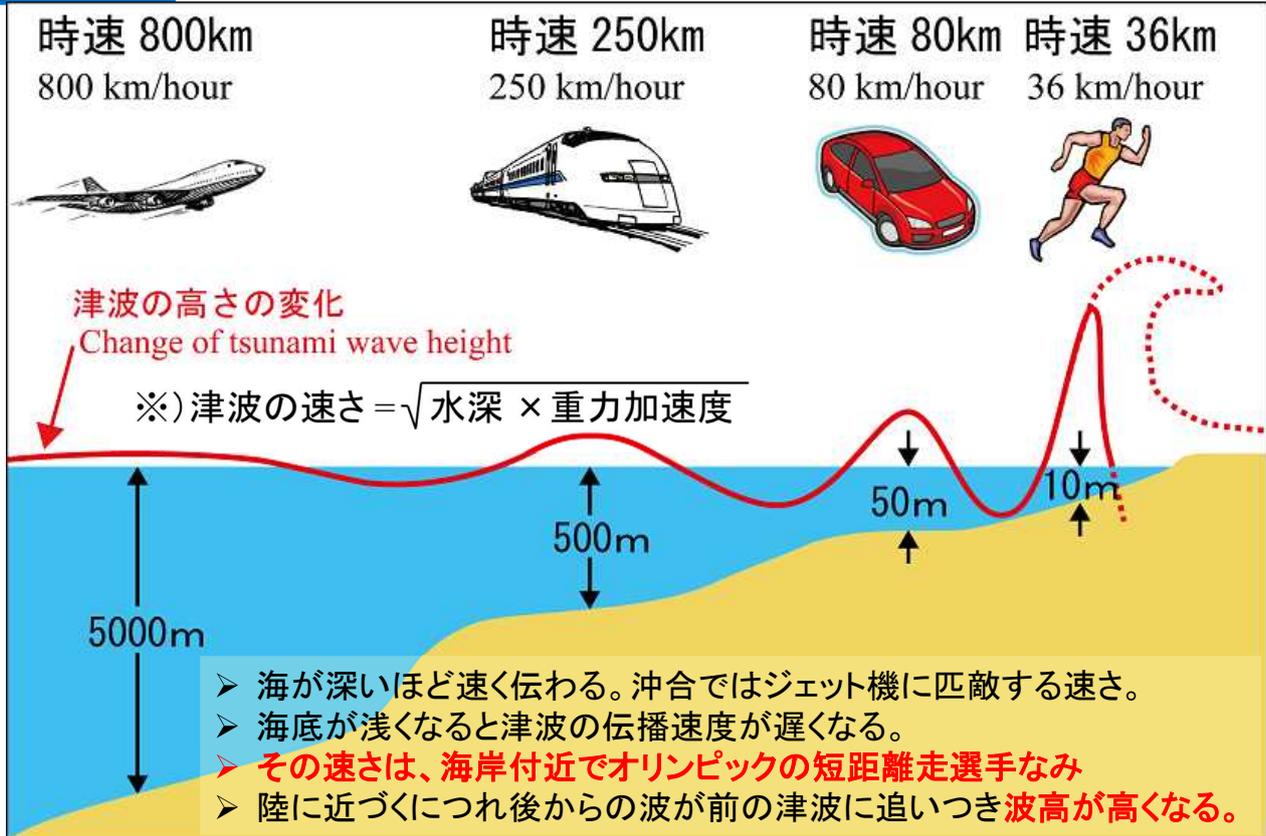
■ 波長がとても長く、数kmから数十km、あるいはそれ以上に及ぶこともあります。

津波がすさまじい破壊力で陸上に流れ込みなかなか引いていかないのはそのためです。

7

津波の特徴②

津波の伝播（猛スピードで来襲）

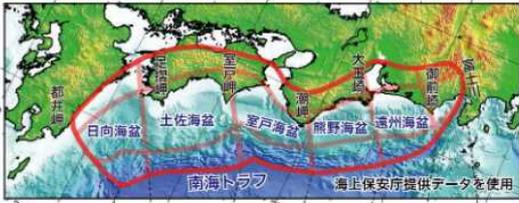


8

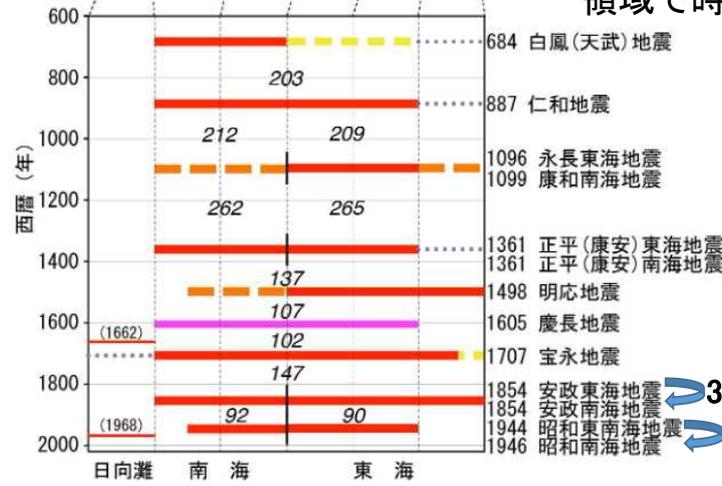
南海トラフ地震とその影響

9

過去に発生した南海トラフ地震



南海トラフ地震の過去事例を見てみると、その発生過程に多様性があることがわかります。宝永地震(1707年)のように駿河湾から四国沖の広い領域で同時に地震が発生したこともあれば、マグニチュード8クラスの大規模地震が隣接する領域で時間差をおいて発生したこともあります。



昭和南海地震から76年

【令和3年1月1日現在の長期評価】
マグニチュード8~9クラス
30年以内: 70~80%
50年以内: 90%程度もしくはそれ以上

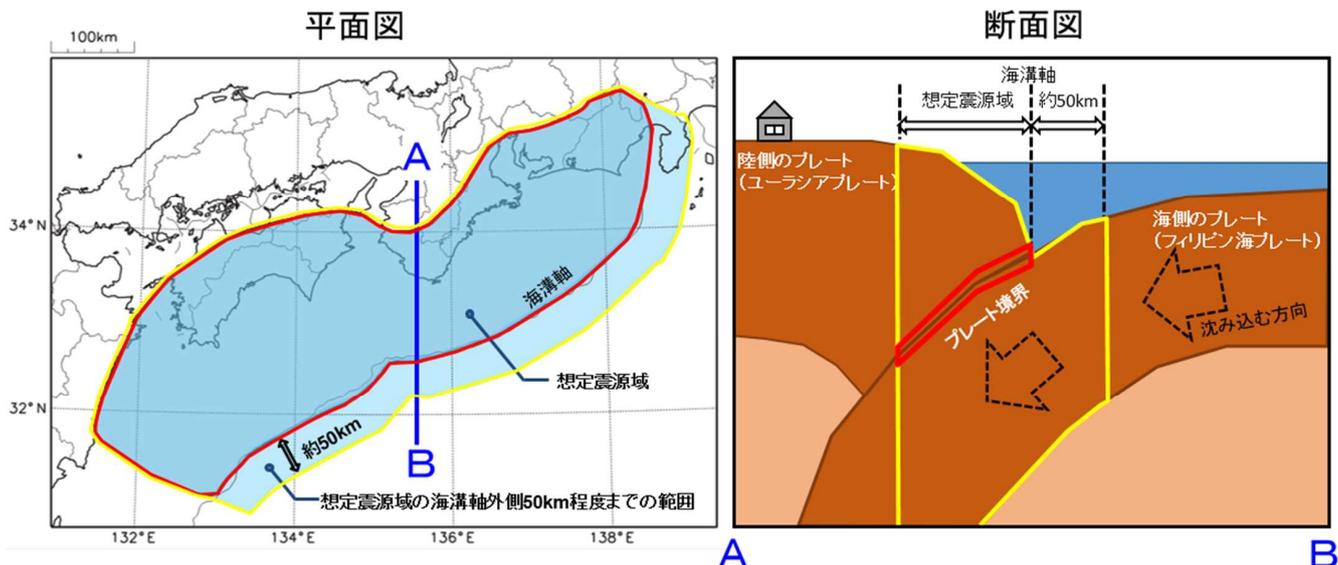
32時間後
 2年後

- 確実な震源域
- 確実視されている震源域
- 可能性のある震源域
- 説がある震源域
- 津波地震の可能性が高い地震
- 日向灘のプレート間地震(M7クラス)

出典: 地震調査研究推進本部「南海トラフの地震活動の長期評価(第二版)」

南海トラフ地震の監視領域

図中赤枠が想定震源域(科学的に想定される最大規模の南海トラフ地震の想定震源域(中央防災会議、2013))です。図中黄色枠が南海トラフ地震の監視領域(想定震源域と、その海溝軸外側50km程度)です。



出典: 気象庁ホームページ

和歌山県では何が起きるのか？

南海トラフの巨大地震の発生には多様性はあるが、

■地震動による被害

- ・ 激しい揺れ（震度7の地域も）長い（2～3分）揺れ
- ・ 長く継続する地震活動
- ・ がけ崩れ、地すべり、河道閉塞、大規模土石流
- ・ 長周期地震動



■津波による被害

- ・ 早くて（数分から十数分）高い（多くの海岸で10m以上を覚悟）

■市街地火災、コンビナート火災

■地盤沈下による長期的な浸水（地盤隆起の影響も）

■液状化

12

南海トラフ地震の想定（和歌山県地域防災計画より）

1 想定地震

- ① 東海・東南海・南海3連動地震（以下、この章において「3連動地震」という）
- ② 南海トラフ巨大地震（以下、この章において「巨大地震」という）

想定地震モデル	① 3連動地震 中央防災会議（2003年）※1	② 巨大地震 内閣府（2012年）※2
地震の規模 (モーメントマグニチュード*)	Mw 8.7	Mw 9.1
震源断層の位置	南海トラフ (静岡県～高知県)	南海トラフ (静岡県～宮崎県)

※1 中央防災会議・東南海、南海地震等に関する専門調査会「東南海、南海地震に関する報告」(2003.12)

※2 内閣府・南海トラフの巨大地震モデル検討会「第二次報告」(2012.8)

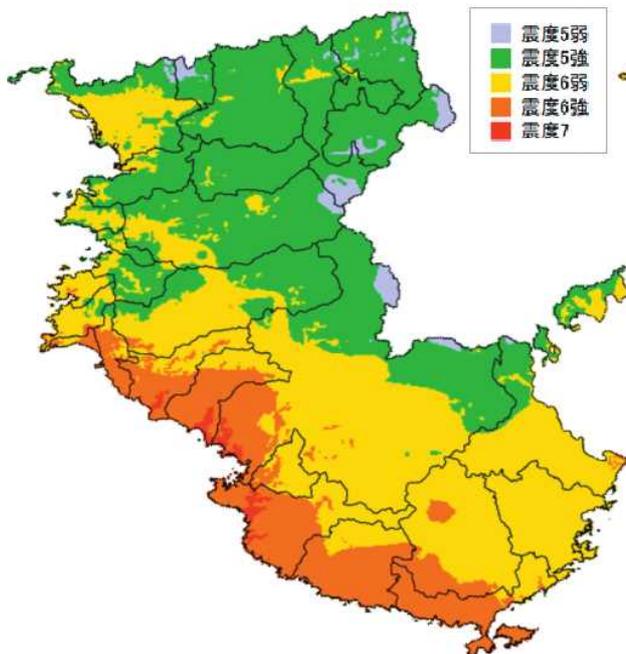
* 震源は潮岬沖を想定

13

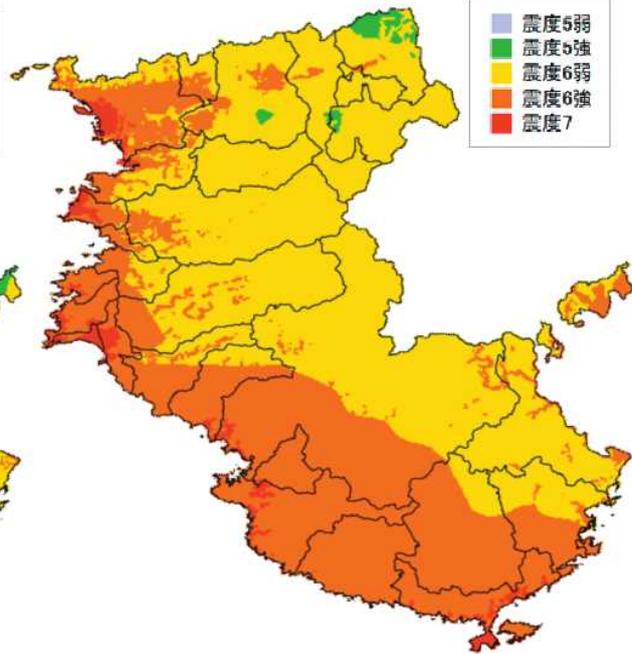
南海トラフ地震による揺れ(和歌山県地域防災計画より)

○震度予測図

【3連動地震】



【巨大地震】



14

阪神・淡路大震災では（コンビニ）



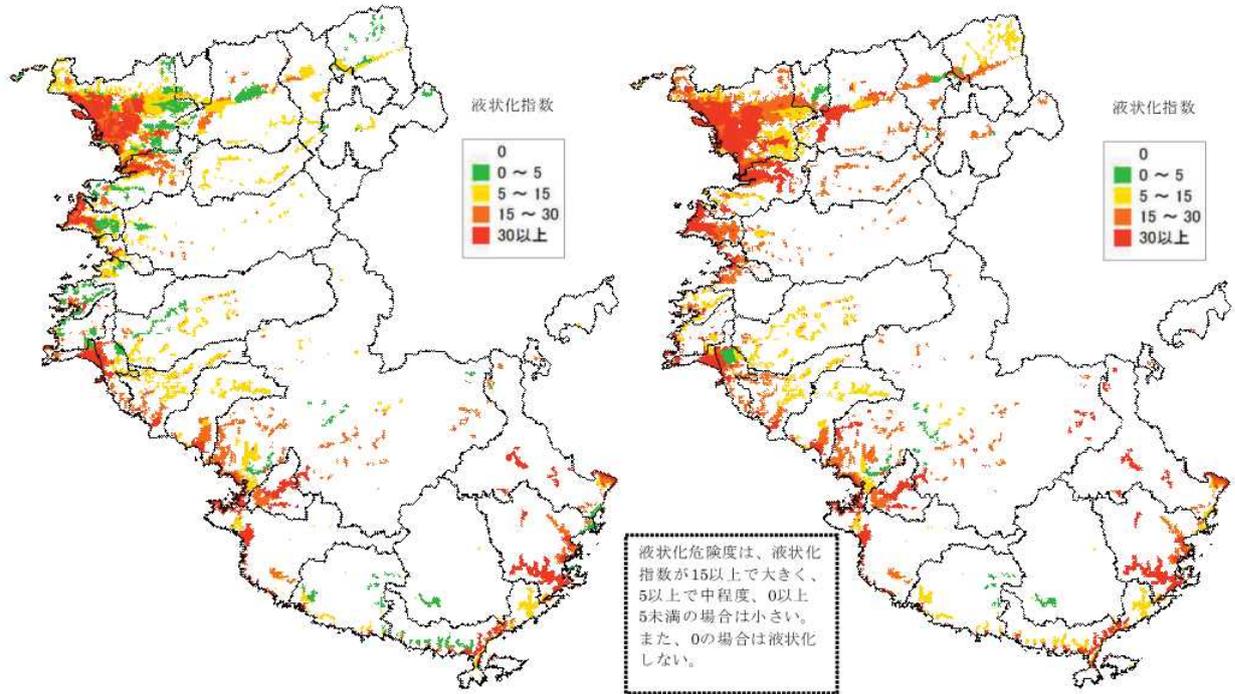
* 画像の時刻は実際の時刻と違います（実際の地震発生時刻：1995年1月17日05時46分）₅

南海トラフ地震による液状化 (和歌山県地域防災計画より)

○液状化予測図

【3連動地震】

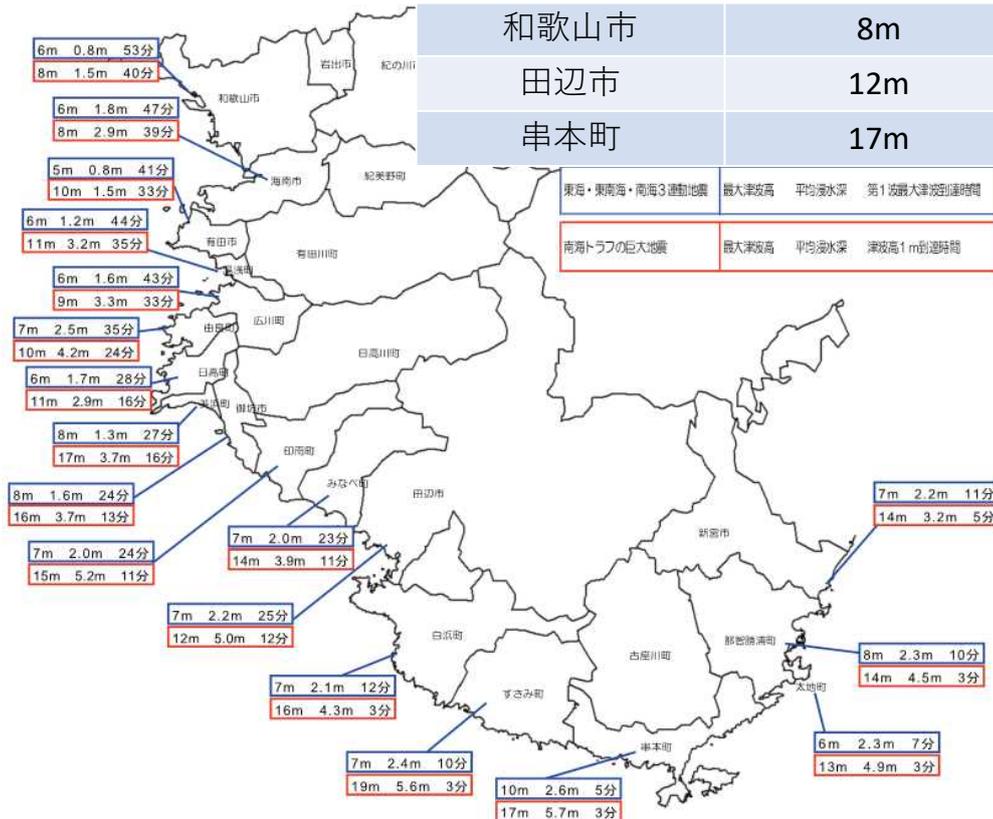
【巨大地震】



南海トラフ地震による津波浸水想定 (和歌山県地域防災計画より)

巨大地震想定

	最大津波波高	津波 1 m 到達時間
和歌山市	8m	40分
田辺市	12m	12分
串本町	17m	3分



***留意点**
この津波浸水想定は震源を潮岬沖としていますが、実際の地震の震源の位置によってはこの想定より津波到達時間が早まる場合があります。

南海トラフ地震による被害想定 (和歌山県地域防災計画より)

		3連動地震	巨大地震
震度分布		震度5強 ~ 震度7	震度6弱 ~ 震度7
建物被害	全壊棟数	約5万9千棟	約15万9千棟
	半壊棟数	約8万8千棟	約10万1千棟
人的被害	死者数	約1万9千人	約9万人
	負傷者数	約1万9千人	約4万人
ライフライン被害	上水道	約88万人	約97万人
	下水道	約14万人	約18万人
	電力	約18万軒	約50万軒
	通信	約8万回線	約24万回線
	都市ガス	約2万戸	約1万6千戸
交通施設被害	道路	約1500箇所	約2100箇所
	鉄道	約600箇所	約800箇所
	港湾	約100箇所	約300箇所
生活への影響	避難者	約28万人	約44万人
	帰宅困難者	約19万人	約19万人
	物資	約200万食	約310万食
	医療機能	約6千病床が不足	約2万病床が不足
災害廃棄物等		約800万トン	約2200万トン

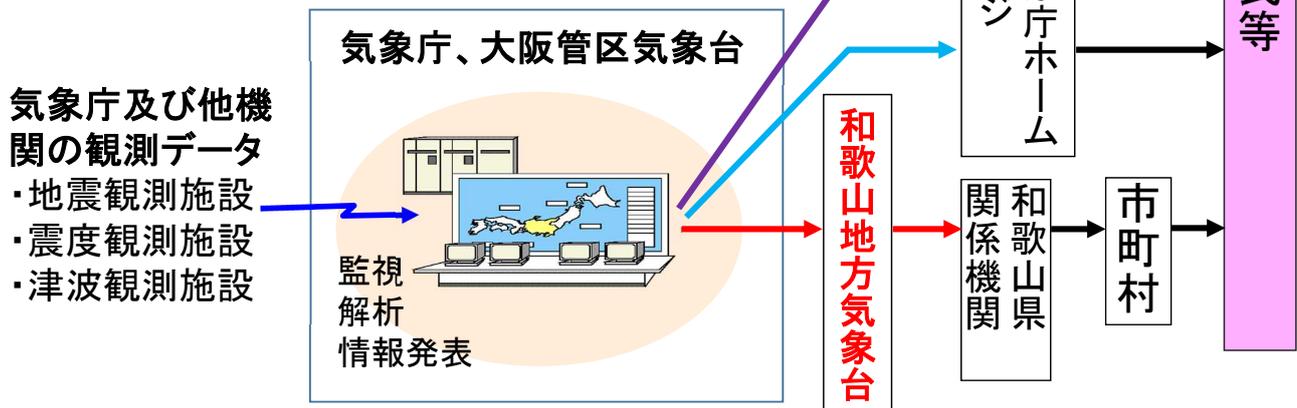
18

地震・津波の 防災情報の伝達

19

地震・津波の防災情報の伝達の流れ

- 気象庁と大阪管区気象台が24時間体制で地震・津波を監視し、防災情報の発表・伝達を行います。
- 和歌山地方気象台は、解説や防災機関の支援を行います。



20

緊急速報メール

- 「緊急速報メール」は、携帯電話事業者（NTTドコモ、KDDI・沖縄セルラー（au）、ソフトバンク）が無料で提供するサービスで、国や地方公共団体による災害・避難情報等を、回線混雑の影響なく、特定のエリア内の対応端末（スマートフォン・携帯電話）に一斉に配信するものです（詳しくは、携帯電話事業者のホームページをご覧ください）。
* 携帯電話等の報知音  * テレビの報知音 
- 気象庁が発表する防災気象情報のうち、「緊急速報メール」により配信するものは、下記のとおりです（気象庁発表の全ての特別警報が緊急速報メールで配信されます）。
 - 緊急地震速報（警報）
 - 大津波警報・津波警報
 - 気象等（大雨、暴風、高潮、波浪、暴風雪、大雪）に関する特別警報※
 - 噴火に関する特別警報※※対象市町村に初めて発表したときに関係するエリアに配信されます。

21

気象庁ホームページ (https://www.jma.go.jp/)

発表された防災情報は、気象庁ホームページでリアルタイムで確認できます。また、ご自分の必要な情報のみを選択するなど自由にカスタマイズすることもできます。

The screenshot shows the JMA homepage with a red box highlighting the disaster information icons (防災情報, 天気, 大雨危険度, 大雪, 地震・火山). A red arrow points from the text '2021/2/24 リニューアル' to the '防災情報' icon. The page also features a navigation menu, a search bar, and a news section titled '報道発表'.

ここ
2021/2/24
リニューアル

国土交通省
気象庁
Japan Meteorological Agency

> ENGLISH > Other Languages
文字サイズ変更 標準 大
気象庁防災情報 Twitter 気象庁 Twitter 気象庁 YouTube 気象庁 YouTube
ENHANCED BY Google 検索

ホーム 防災情報 各種データ・資料 地域の情報 知識・解説 各種申請・ご案内

気象科学館

防災情報 天気 大雨危険度 大雪 地震・火山

被災地域への支援情報

報道発表 一覧 RSS配信

令和3年2月24日

報道発表 「長周期地震動の予測情報に関する実証実験報告会」の開催について

お知らせ 令和3年2月13日23時08分頃の福島県沖の地震による震度観測点の観測環境点検結果についてとりまとめました

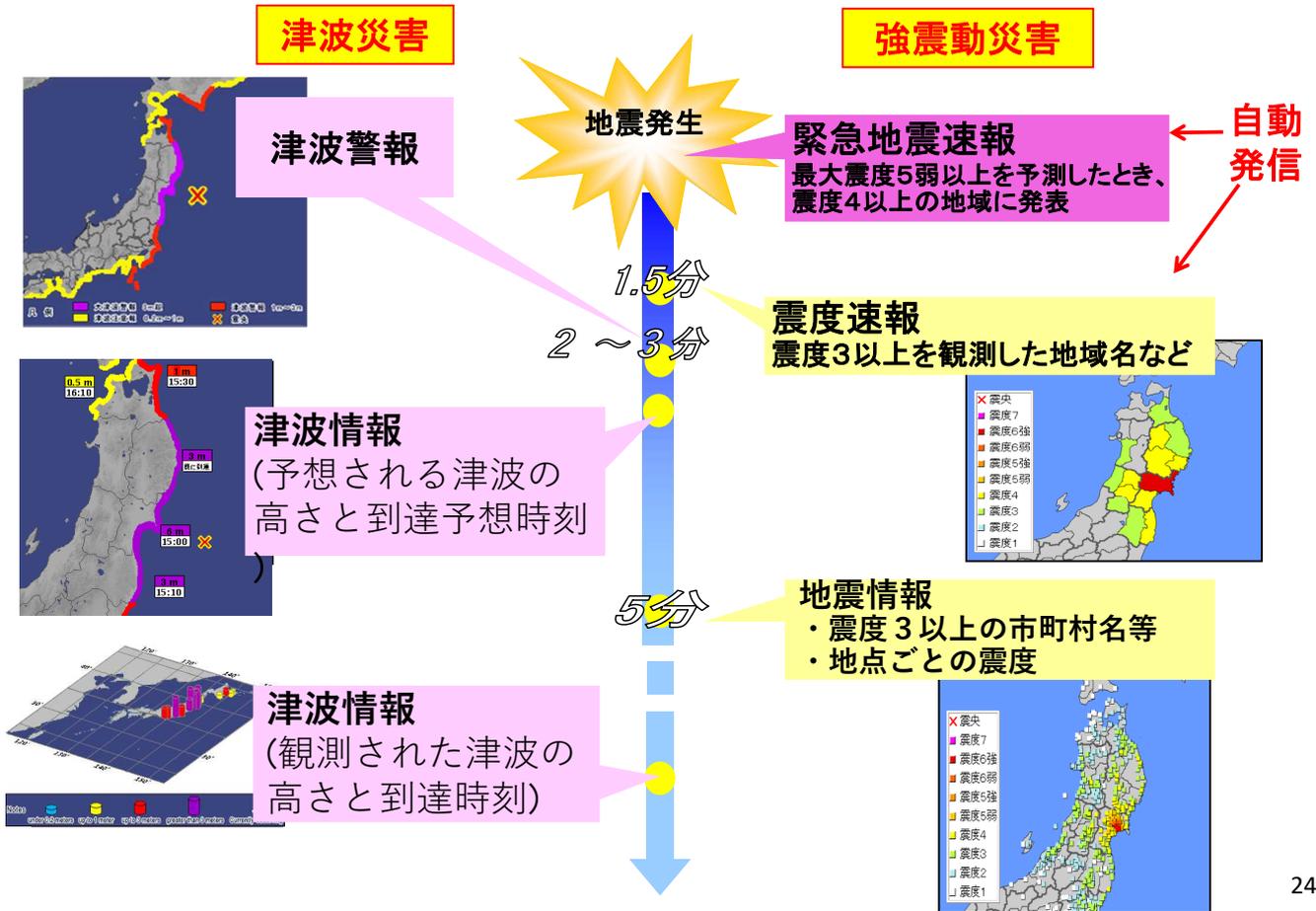
お知らせ 気象庁ホームページのリニューアルについて

22

地震・津波の 防災情報の発表タイミング

23

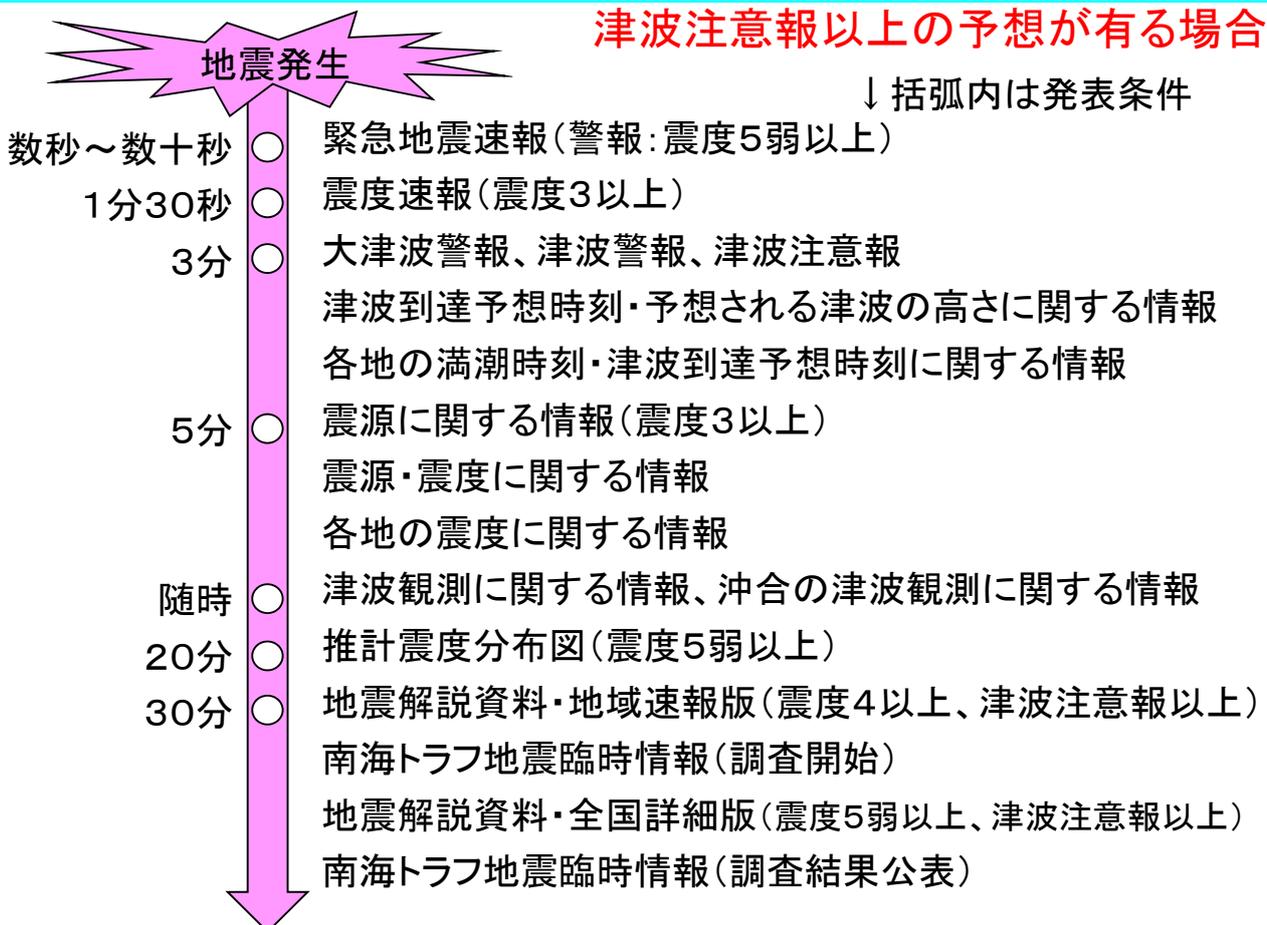
地震発生直後に気象庁が発表する地震・津波の防災情報



防災情報の発表タイミング

津波注意報以上の予想が有る場合

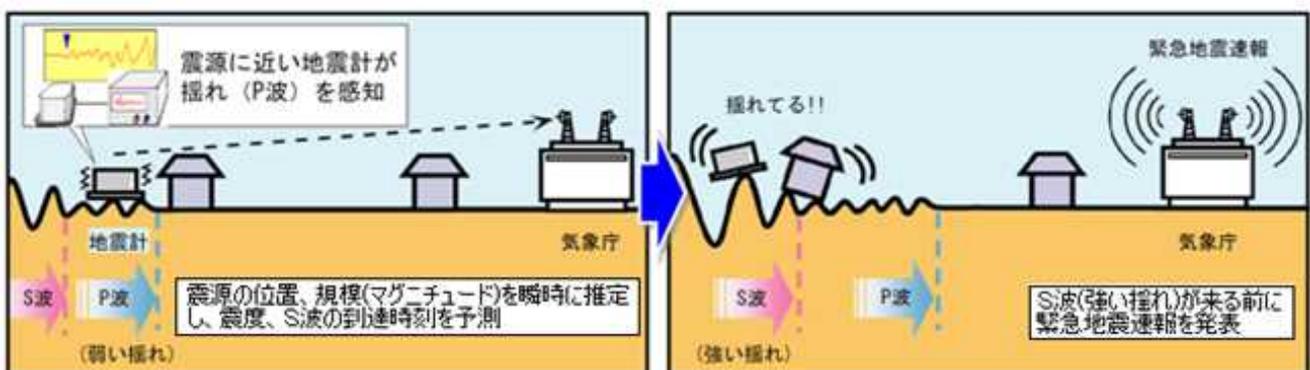
↓ 括弧内は発表条件



地震の防災情報

26

緊急地震速報の原理



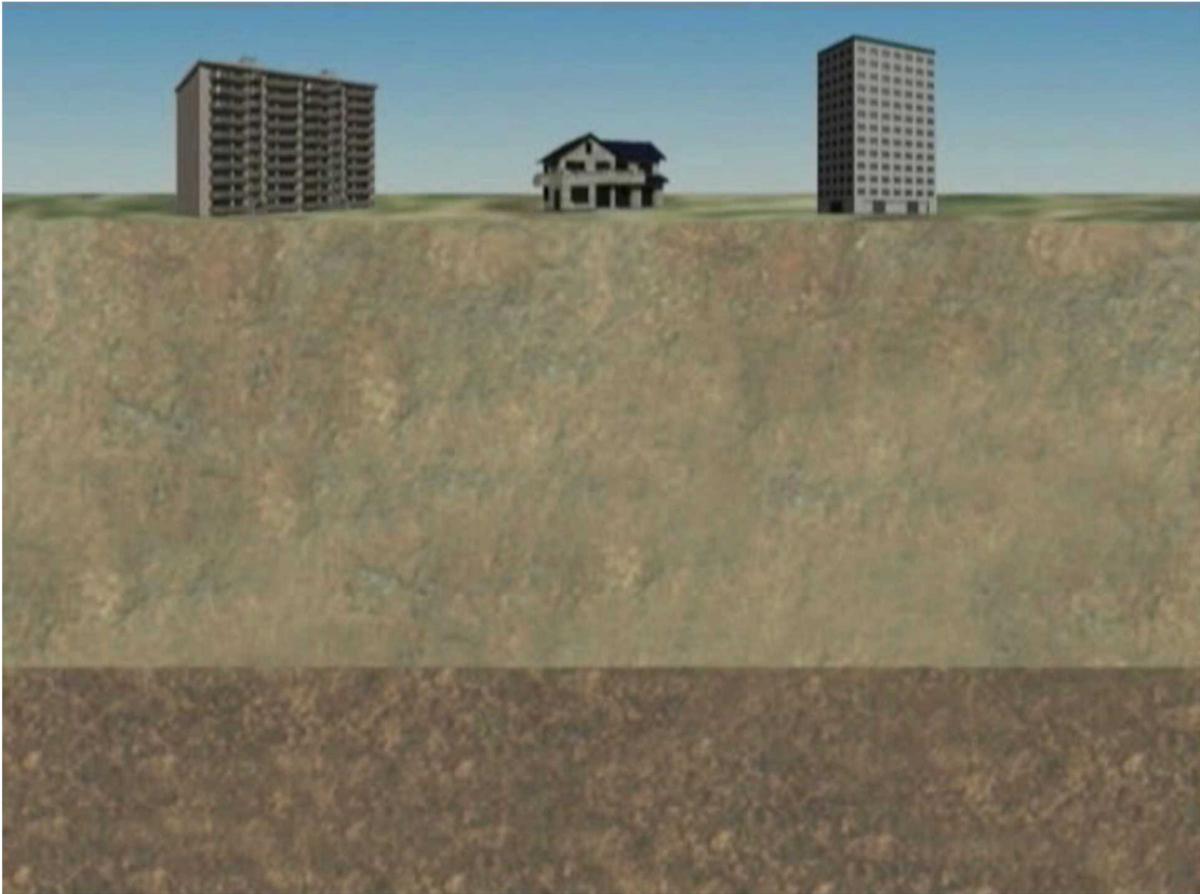
速度 P波 : 秒速約7km
S波 : 秒速約4km

地震の規模（マグニチュード）、震源からの距離、地盤の揺れやすさを計算して震度を予測

※ 地震を検知してから発表する情報なので、「地震予知」ではない
※ 強い揺れがくるまでの時間は、数秒～数十秒

27

緊急地震速報（映像）



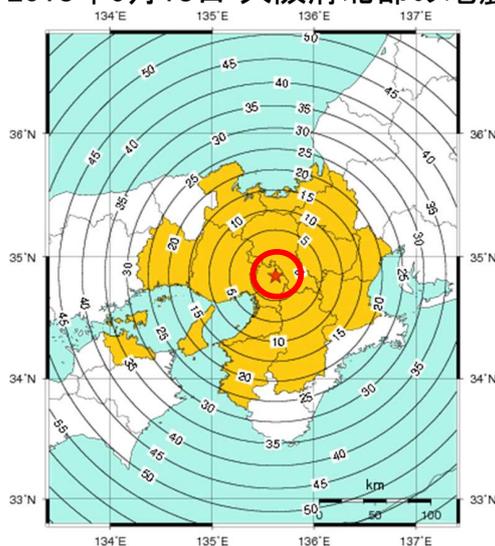
28

緊急地震速報（警報） 1/2

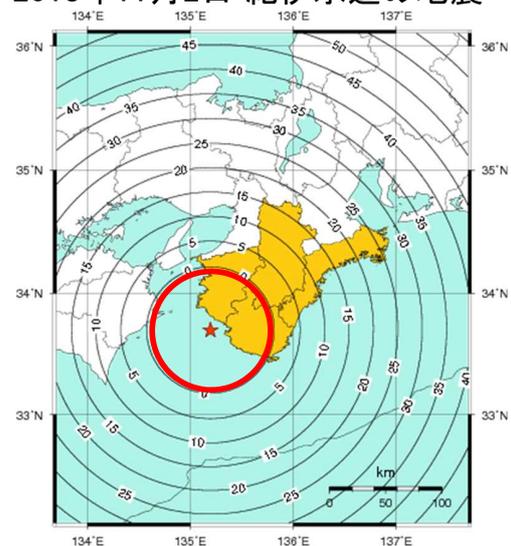
- ◆ 緊急地震速報（警報）は、最大震度が5弱以上と予想された場合に、震度4以上が予想される地域※を知らせ、身の安全を守ってもらうための情報です。緊急地震速報（警報）のうち、震度6弱以上が予想される場合を特別警報（地震動特別警報）に位置付けます。 ※次ページで説明

- ◆ 発表から強い揺れが来るまでの時間は、数秒から数十秒しかありません。場所によっては、間に合わないこともあります（赤円の中）。

2018年6月18日 大阪府北部の地震



2018年11月2日 紀伊水道の地震



29

緊急地震速報(警報) 2/2

和歌山県内の地域は、「和歌山県北部」と「和歌山県南部」があります。
「和歌山県北部」がみなべ町より北側、「和歌山県南部」が田辺市から南側です。



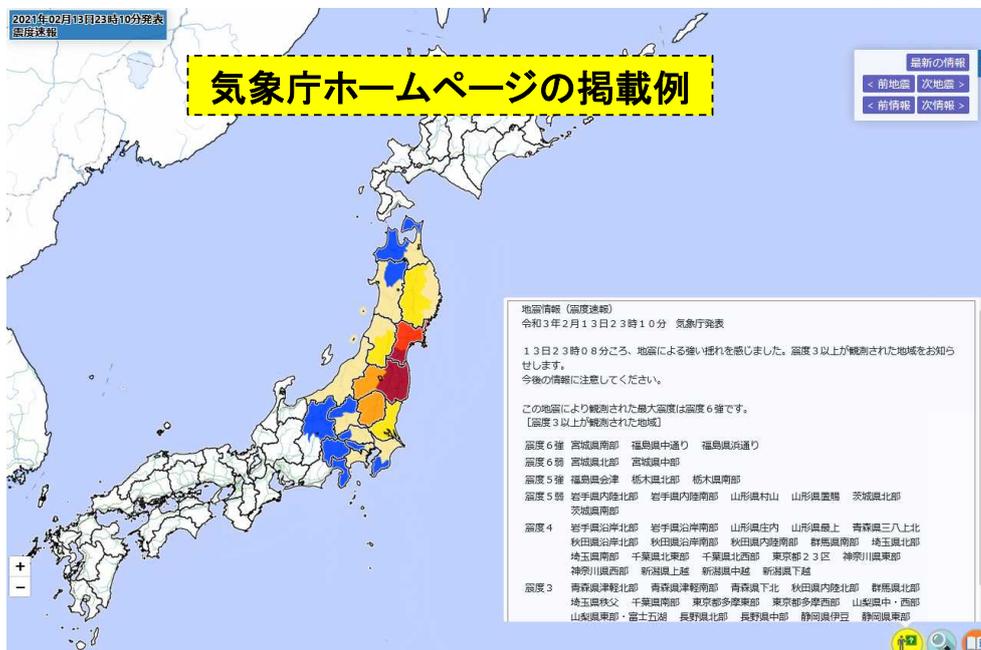
国土地理院の白地図へ境界等を記載

震度速報

地震発生約1分半後に、震度3以上を観測した地域名※と地震の揺れの検知時刻を発表します。

同一地域で震度3以上を短時間に連続して観測した場合や、品質管理上の理由などにより発表しないこともあります。

※地域名
和歌山県北部(田辺市より北側)
和歌山県南部(田辺市から南側)



震源に関する情報

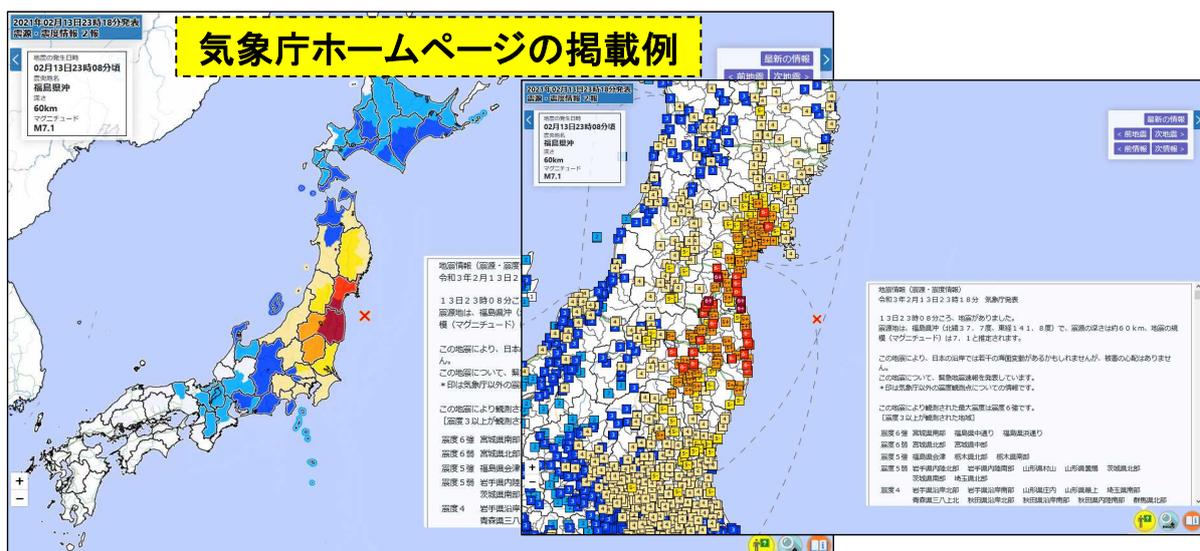
震度3以上を観測した地震で、津波の被害がないと予想される場合に、地震の発生場所(震源)やその規模(マグニチュード)とともに「津波の心配がない」または「若干の海面変動があるかもしれないが被害の心配はない」旨を発表します。



震源・震度に関する情報(各地の震度に関する情報)

震度1以上を観測した場合に、地震の発生場所(震源)やその規模(マグニチュード)、各地で観測された震度を発表します。また、震度5弱以上と考えられる地域で、震度を入手していない地点がある場合は、その地点名を発表します。

※ 地震が多数発生した場合、震度3以上の地震についてのみ発表し、震度2以下の地震については、その発生回数を「その他の情報(地震回数に関する情報)」で発表することがあります。



推計震度分布図

震度5弱以上を観測した場合に、観測した各地の震度データをもとに1km四方ごとに推計した震度分布図(震度4以上)を公表します。



34

地震解説資料

防災機関等を支援するために提供する情報です。

- ◆ 解説資料(全国速報版、地域速報版)
震度4以上の地震が発生した場合や、津波警報・注意報を発表した場合には、地震発生後30分くらいで発表します。
- ◆ 解説資料(全国詳細版、地域詳細版)
震度5弱以上の地震が発生した場合や、津波警報・注意報を発表した場合には、地震発生後1～2時間くらいで発表します。

気象庁ホームページの掲載イメージ

地震解説資料

地震解説資料(緊急版)		
番号	発表時刻	(地震解説資料(緊急版))
1	2021年02月15日13時49分	地震解説資料(緊急版) 気象庁
2	2021年02月15日13時49分	地震解説資料(緊急版) 和歌山地方気象台
3	2021年02月14日16時53分	地震解説資料(緊急版) 気象庁

緊急版の方です

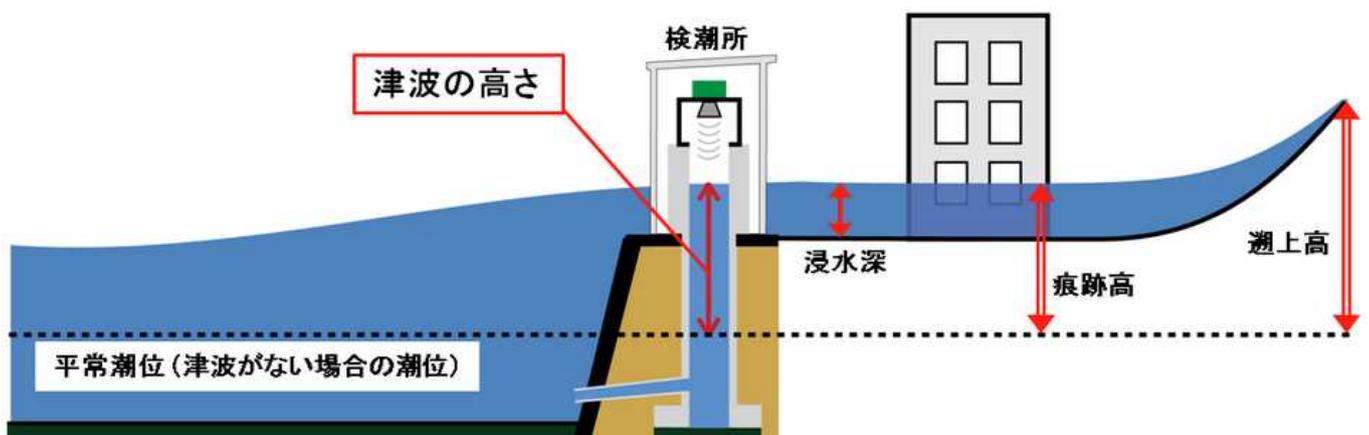
地震解説資料(定期版)		
番号	発表時刻	(地震解説資料(定期版))
1	2021年02月19日15時18分	地震解説資料(定期版) 仙台管区気象台
2	2021年02月19日14時34分	地震解説資料(定期版) 気象庁
3	2021年02月19日14時33分	地震解説資料(定期版) 気象庁

35

津波の防災情報

津波の高さ

気象庁が発表する「津波の高さ」は、津波がない場合の海面（平常潮位）から津波によって海面が上昇した高さのことです。沿岸の検潮所で観測する「津波の高さ」以外に、「痕跡高」、「遡上高」というものがあり、どちらも津波の痕跡などを調査して求める平常潮位（津波がない場合の潮位）からの高さです。これらは、沿岸の「津波の高さ」よりも高くなる場合があります。「浸水深」は、地面から津波痕跡までの高さです。



大津波警報・津波警報・津波注意報

地震が発生した時には地震の規模や位置をすぐに推定し、これらをもとに沿岸で予想される津波の高さを求め、地震が発生してから約3分を目標に、大津波警報、津波警報または津波注意報を、津波予報区単位で発表します(和歌山県の津波予報区＝「和歌山県」)。過去に発生した津波被害では、3mを超えると重大な被害となっていることから、大津波警報を特別警報と位置付けています。

地震の規模(マグニチュード)が8を超えるような巨大地震に対しては、精度のよい地震の規模をすぐに求めることができないため、その海域における最大の津波想定等をもとに津波警報・注意報を発表します。



出典：パンフレット「地震と津波」

種類	発表条件
大津波警報	予想される津波の高さが高いところで3mを超える場合。
津波警報	予想される津波の高さが高いところで1mを超え、3m以下の場合。
津波注意報	予想される津波の高さが高いところで0.2m以上、1m以下の場合であって、津波による災害のおそれがある場合。

津波到達予想時刻・予想される津波の高さに関する情報

各津波予報区の津波の到達予想時刻や予想される津波の高さを発表します。各津波予報区でもっとも早く津波が到達する時刻のため、場所によっては、この時刻よりも1時間以上遅れて津波が襲ってくることもあります。

地震の規模(マグニチュード)が8を超えるような巨大地震で、その海域における最大の津波想定等をもとに津波警報・注意報を発表した場合は、予想される津波の高さを「巨大」や「高い」という言葉で発表して、非常事態であることを伝えます。



出典：パンフレット「地震と津波」

種類	数値での表現	巨大地震の場合の表現
大津波警報	10m超(10m<予想高さ)	巨大
	10m(5m<予想高さ≤10m)	
	5m(3m<予想高さ≤5m)	
津波警報	3m(1m<予想高さ≤3m)	高い
津波注意報	1m(0.2m≤予想高さ≤1m)	(表記しない)

各地の満潮時刻・津波到達予想時刻に関する情報

主な地点の満潮時刻・津波の到達予想時刻を公表します。
この情報に掲載される和歌山県内の地点は、以下の5カ所です。

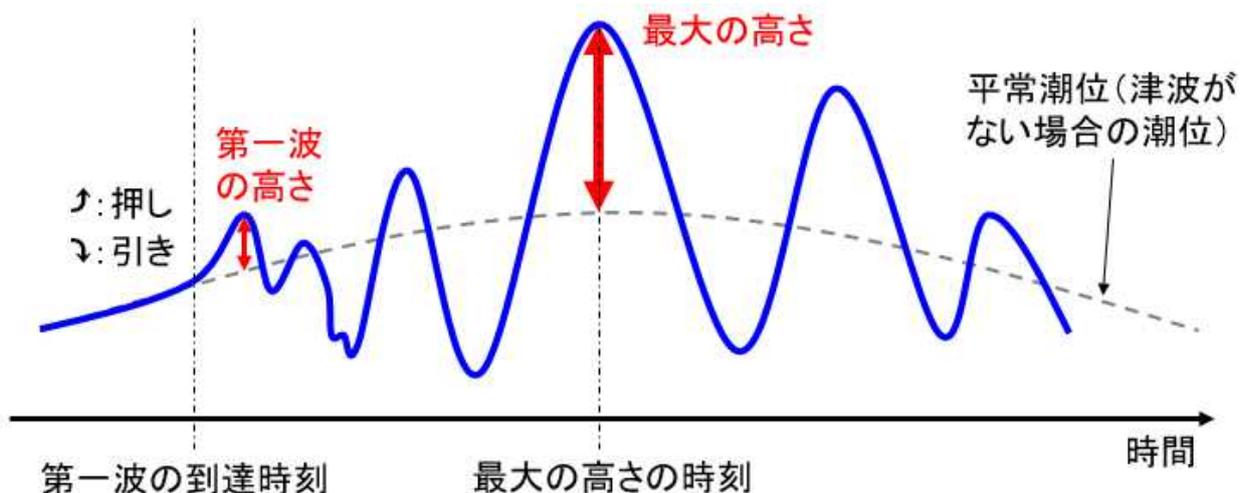
- 和歌山
- 御坊市祓井戸(はらいど)
- 白浜町堅田
- 串本町袋港
- 那智勝浦町浦神



40

第一波や最大波

沿岸で観測した津波は「津波観測に関する情報」、沖合で観測された津波は「沖合の津波観測に関する情報」で、第一波の到達時刻と押し引き、その時点までに観測された最大波の観測時刻と高さを発表します。その時刻や高さなどの測り方は、下図のとおりです。



41

津波観測点

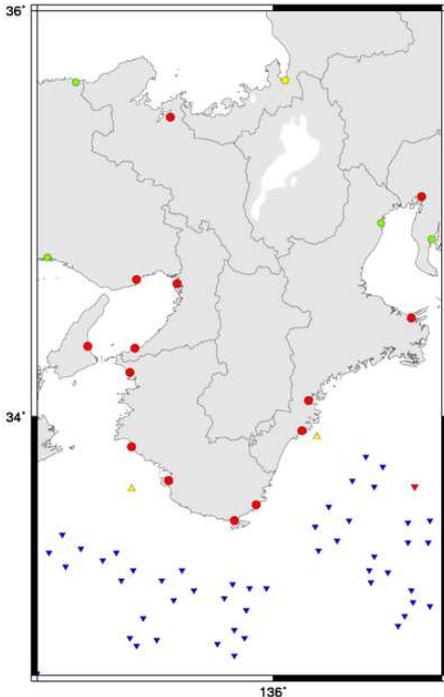
津波観測点 (近畿地方)

<観測機器>

● 津波観測計 ▲ GPS波浪計 ▼ ケーブル式海底津波計

<所属機関>

赤色 気象庁
 青色 防災科学技術研究所
 茶色 その他の機関
 黄色 国土交通省港湾局
 緑色 国土地理院
 水色 海上保安庁
 紫色 海洋研究開発機構
 桃色 東京大学地震研究所
 黄緑色 地方公共団体



出典: 気象庁ホームページ

令和2年3月12日現在、国内の津波観測点は、沿岸:174地点、沖合:232地点あります。
 左図は、和歌山県付近の津波観測点の配置図です。

沖合の津波観測に関する情報

沖合で観測された津波の第1波の観測時刻と押し引き、その時点までに観測された最大波の観測時刻と高さを観測点ごとに発表します。また、これら沖合の観測値から推定される沿岸での推定値※(第1波の推定到達時刻、最大波の推定到達時刻と推定高さ)を津波予報区単位で発表します。

最大波高さの観測値及び推定値については、避難行動への影響を考慮し、一定の基準を満たすまでは数値を発表しません。「観測中」や「推定中」などの表現で発表し、津波が到達中であることを伝えます。

気象庁ホームページの掲載イメージ



出典: パンフレット「地震と津波」

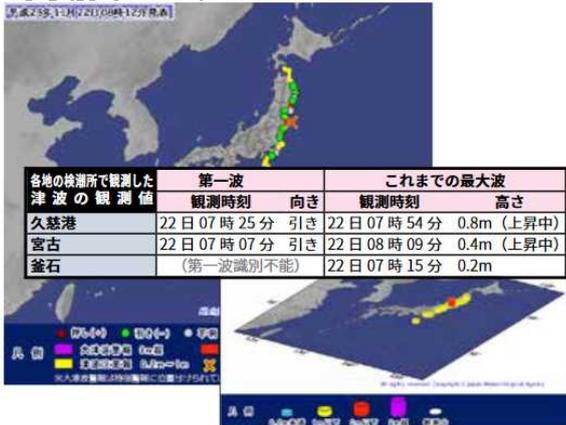
警報・注意報の発表状況	沿岸で推定される津波の高さ	内容
大津波警報を發表中	3m超	観測値、沿岸での推定値とも数値で発表
	3m以下	観測値を「観測中」、沿岸での推定値を「推定中」と発表
津波警報を發表中	1m超	観測値、沿岸での推定値とも数値で発表
	1m以下	観測値を「観測中」、沿岸での推定値を「推定中」と発表
津波注意報を發表中	すべての高さ	観測値、沿岸での推定値とも数値で発表

津波観測に関する情報

沿岸の観測点で津波が観測された場合、その第一波の観測時刻と押し引き、その時点までに観測された最大波の観測時刻とその高さを観測地点ごとに発表します。

最大波高さの観測値については、避難行動への影響を考慮し、一定の基準を満たすまでは数値を発表しません。「観測中」などの表現で発表し、津波が到達中であることを伝えます(下表参照)。

気象庁ホームページの掲載イメージ



出典：パンフレット「地震と津波」

警報・注意報の発表状況	観測された津波の高さ	内容
大津波警報を 発表中	1m超	数値で発表
	1m以下	「観測中」と発表
津波警報を 発表中	0.2m以上	数値で発表
	0.2m未満	「観測中」と発表
津波注意報を 発表中	すべての高さ	数値で発表(津波の高さがごく小さい場合は「微弱」と表現。)

津波予報

地震発生後、津波による災害が起こるおそれがない場合には、以下の内容を津波予報で発表します。(津波が予想されないときは、津波の心配なしの旨を地震情報に含めて発表します。)

発表される場合	内容
0.2m未満の海面変動が予想されたとき	高いところでも0.2m未満の海面変動のため被害の心配はなく、特段の防災対応の必要がない旨を発表します。
津波注意報解除後も海面変動が継続するとき	津波に伴う海面変動が観測されており、今後も継続する可能性が高いため、海に入っの作業や釣り、海水浴などに際しては十分な留意が必要である旨を発表します。



「南海トラフ地震に関連する情報」の種類等

「南海トラフ地震に関連する情報」は、南海トラフ全域を対象に地震発生の可能性の高まりについてお知らせするものです。

情報の種類と発表条件は以下のとおりです。

情報名	情報発表条件
南海トラフ地震臨時情報	<ul style="list-style-type: none"> ● 南海トラフ沿いで異常な現象が観測され、その現象が南海トラフ沿いの大規模な地震と関連するかどうか調査を開始した場合、または調査を継続している場合 ● 観測された異常な現象の調査結果を発表する場合
南海トラフ地震関連解説情報	<ul style="list-style-type: none"> ● 観測された異常な現象の調査結果を発表した後の状況の推移等を発表する場合 ● 「南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会」の定例会合における調査結果を発表する場合（ただし南海トラフ地震臨時情報を発表する場合を除く） <p>※すでに必要な防災対応がとられている際は、調査を開始した旨や調査結果を南海トラフ地震関連解説情報で発表する場合があります</p>

46

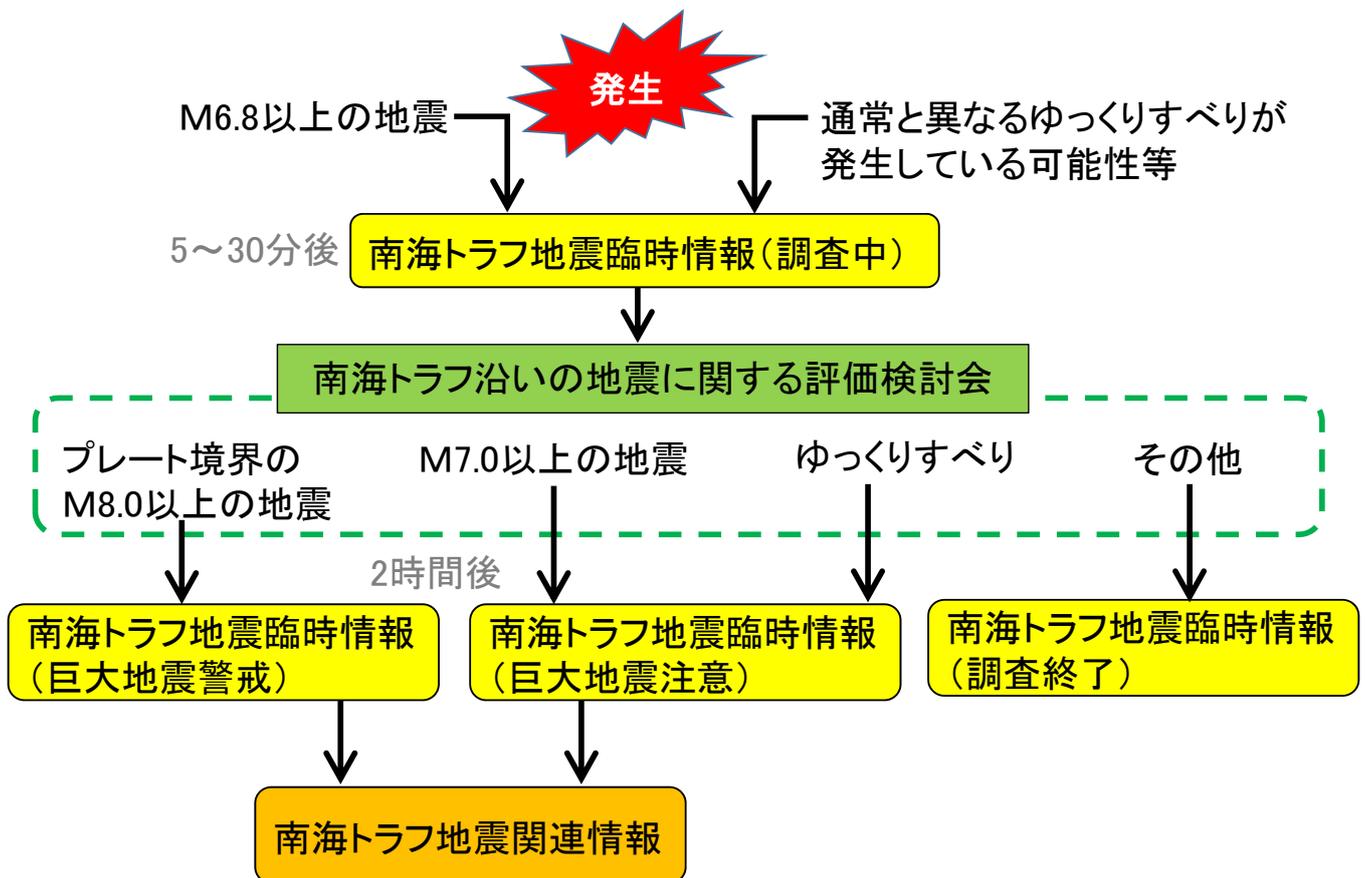
南海トラフ地震臨時情報

「南海トラフ地震臨時情報」は、情報名の上にキーワードを付記して「南海トラフ地震臨時情報(調査中)」等の形で情報発表します。

キーワード	各キーワードを付記する条件
調査中	<p>下記のいずれかにより臨時に「南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会」を開催する場合</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 監視領域内でマグニチュード6.8以上の地震が発生 ● 1カ所以上のひずみ計での有意な変化と共に、他の複数の観測点でもそれに関係すると思われる変化が観測され、想定震源域内のプレート境界で通常と異なるゆっくりすべりが発生している可能性がある場合など、ひずみ計で南海トラフ地震との関連性の検討が必要と認められる変化を観測 ● その他、想定震源域内のプレート境界の固着状態の変化を示す可能性のある現象が観測される等、南海トラフ地震との関連性の検討が必要と認められる現象を観測
巨大地震警戒	想定震源域内のプレート境界において、モーメントマグニチュード8.0以上の地震が発生したと評価した場合
巨大地震注意	<ul style="list-style-type: none"> ● 監視領域内において、モーメントマグニチュード7.0以上の地震が発生したと評価した場合（巨大地震警戒に該当する場合は除く） ● 想定震源域内のプレート境界面において、通常と異なるゆっくりすべりが発生したと評価した場合
調査終了	「巨大地震警戒」、「巨大地震注意」のいずれにも当てはまらない現象と評価した場合

47

「南海トラフ地震に関連する情報」の発表の流れ



48

「南海トラフ地震に関連する情報」

平成29年11月1日から「南海トラフ地震に関連する情報」の運用を開始しています。

「南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会」の定例会合における調査結果を「南海トラフ地震関連解説情報」で毎月発表しています。

なお、これまで「南海トラフ地震臨時情報」及び「南海トラフ地震関連解説情報(定例以外)」の発表はありません。

気象庁ホームページの掲載例

令和3年2月5日18時00分
気象庁

南海トラフ地震関連解説情報

**** 見出し ****
第40回南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会、第418回地震防災対策強化地域判定会で、南海トラフ周辺の地殻活動を評価しました。

**** 本文 ****
本日(2月5日)開催した第40回南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会、第418回地震防災対策強化地域判定会で評価した、南海トラフ周辺の地殻活動の調査結果は以下のとおりです。

現在のところ、南海トラフ沿いの大規模地震の発生の可能性が平常時(注)と比べて相対的に高まったと考えられる特段の変化は観測されていません。

(注)南海トラフ沿いの大規模地震(M8からM9クラス)は、「平常時」においても今後30年以内に発生する確率が70から80%であり、昭和東南海地震・昭和南海地震の発生から既に70年以上が経過していることから切迫性の高い状態です。

49

地震・津波から 身を守るために

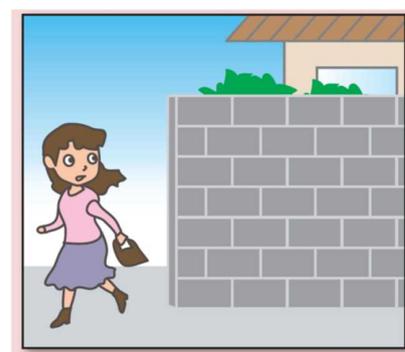
50

地震や津波から命を守るために（揺れ）

- 緊急地震速報を見聞きしたら・・・
- 地震の揺れを感じたら・・・



- ・（家庭では）
 - ・安全スペースに避難
 - ・頭部を保護し、丈夫な机の下など安全な場所に避難
- ・（屋外では）
 - ・ブロック塀の倒壊に注意
 - ・看板や割れたガラスの落下に注意



あわてず、身の安全の確保を

- ※日頃から備えを
 - ・住宅、建造物の耐震化
 - ・家具などの転倒・移動防止
 - ・訓練の実施

地震や津波から命を守るために（津波）

津波から身を守るために、沿岸部や川沿いにいる人は



○強い揺れを感じたとき

○弱い揺れでも、長い時間ゆっくりとした揺れを感じたときは

○揺れを感じなくても、大津波警報・津波警報が発表されたときは

直ちに、高台や津波避難ビルなど安全な場所に避難

津波は川を遡上する。川から離れ安全な場所に避難

※いざというときに安全に避難できるよ
日頃から備えを

- ・津波からの避難経路の確認
- ・住宅、建造物の耐震化
- ・家具などの転倒・移動防止



【気象庁「地震と津波」より抜粋】₅₂

地震や津波から命を守るために（津波）

さらに・・・

ここなら安心と思わず、より高いところを目指して避難



東北地方太平洋沖地震の際、岩手県釜石市鵜住居（うのすまい）地区の小学校・中学校では

最初に避難した場所では危ないと2番目の避難場所へ逃げ、さらにもっと高いところに逃げた。

津波は繰り返し襲ってくる。最大波が第1波の後でやってくることもある。

大津波警報・津波警報の解除まで避難を続ける。

（家に戻ったり、高台からおりたりしない。）



【気象庁「地震と津波」「津波防災」より抜粋】

* 津波注意報でも、海水浴や磯釣りは危険

おわり